

自民など「再稼働必要」

高浜3、4号で
県議会全協

県議会は16日、全員協議会を開き、再稼働の最終手続きが進む関西電力高浜原発3、4号機（高浜町）について、各会派の代表者が意見表明を行った。自民党県政会、公明、希望ふくいの3会派は原発の必要性を強調し、共産と無所属の細川かをり氏は再稼働に反対。民主・みらいは「判断できる環境にない」と位置付けた。青藍会は15日の予算決算特別委員会で既に「必要」と表明している。＝①面参照（西尾述志、塚田真裕、山本洋児）



再稼働の必要性を訴える自民党県政会の山岸猛夫会長＝県庁で

共産など「反対」 民主・みらい「判断できず」

4号機の再稼働は必要」と
明言した。

山岸猛夫会長は、東京電

力福島第一原発事故で原発

に対する国民の信頼は「著

しく低下した」と指摘した

上で、県議会在会や事業者

に安全確保と立地地域の振

興を求めた取り組みや、政
府のエネルギー基本計画が
大勢が避難生活を送るなど
「福島事故は収束してい
ない」と理由を挙げた。だ
と、日本のエネルギー確保

原発を「重要なベースロー
ド電源」と位置付けた経緯
を説明した。

県が再稼働条件に挙げる
国民理解は「十分に深まっ
ていない」との認識。今も

国民理解は「十分に深まっ
ていない」との認識。今も

大勢が避難生活を送るなど
「福島事故は収束してい
ない」と理由を挙げた。だ

と、日本のエネルギー確保

と、日本のエネルギー確保

や電気料金の値上げ問題、
地球温暖化対策のため「原
発なしでは日本はやってい
けない」と結論づけた。理
解を深めるための国や事業
者、県の対応は求めた。

■民主・みらい

野田實久会長は広域避難
で対策が不十分なことや中
間貯蔵施設の県外立地への
道筋が明らかでないことな
どを理由に「現段階ではど
ても判断できる環境、条件
でなく慎重な対応を求め
る」と訴えた。

■公明

九州電力川内原発（鹿児島
県）で同意前に原発から
三十キロ圏内の総合防災訓
練が行われたことを指摘。
「絶対安全がないと言っ
たら、防災避難の対策を講じ
た上で判断すべきだ」と
主張した。中間貯蔵施設の
県外立地には二〇三〇年、こ
の操業開始とする関電の計
画に「見通しは一切明らか
にできない」としており、到
底承諾できない」と批判。
「事業者から明確な担保」
を求めると述べた。

■共産

佐藤正雄氏は再稼働の必
要性について、国民、県民
の理解が進んでいないこと
と県原子力安全専門委員会

■希望、かくい

井ノ部航太氏は「高浜町
の同意がなされた今、西川

で重要な議論が抜けている
点を理由に「再稼働には反
対」と明言した。

■無所属

細川かをり氏は「県民の
生命と財産を守るため、持
続可能な福井とするため、
再稼働に反対する」と表明
した。

■再稼働に当たり、被 害が及ぶ可能性のある自治 体全てに意見を聞かなけれ ば国民理解は得られないと も説明。二酸化炭素削減 は、火力発電の高効率化と 省エネ、再生エネの導入を 本丸にすべきだとした。

再稼働に当たっては、さ
らなる安全対策を要望。国
民理解の促進では、西川一
誠知事による県民への説明
も求めた。

再稼働に当たり、被
害が及ぶ可能性のある自治
体全てに意見を聞かなけれ
ば国民理解は得られないと
も説明。二酸化炭素削減
は、火力発電の高効率化と
省エネ、再生エネの導入を
本丸にすべきだとした。

12/17 県報

知事全協不在に批判

「議会軽視」「異常事態」

「県の原子力行政を方向付ける重要な場」(仲倉典克議長)に、西川一誠知事の姿はなかった。前夜に急ぎよ、政権幹部との面談が決まったため。「議会軽視」「異常事態」との批判が相次ぎ、県議の怒りは最後まで収まらなかった。

県議会全員協議会の冒頭、仲倉議長は強い口調で指摘した。「再三にわたる出席要請に応じなかったこの異常な事態を、極めて遺憾に思う」

県議会には、県政の最高意思決定機関との自負がある。仲倉議長は「会期中はいかなる理由があろうとも議会日程を優先すべきで、議会軽視との指摘も免れない」と注意した。

思いは意見表明した県議らも同じだった。山岸猛夫氏(自民党県政会)は、高浜原発3、4号機の再稼働判断は多くの県民が注目しているとし「知事が逃げた」ともられても致し方ない」と述べた。

野田富久氏(民主・みらい)は「県民不在。『政高議会低』の姿を県民はどう受け止め、判断するか。極めて遺憾で残念」、井ノ部航太氏(希望ふくい)も「伝える相手がいない」とは遺憾。議会に優先させた事実が残る」と抗議した。

西川知事は今定例会序盤に、議会の議論を十分承った上で県民に信頼される判断をしたい、と語った。佐藤正雄氏(共産党)は「議会軽視は県民軽視」と批判。細川かをり氏(無所属)は幕末の福井藩士、由利公正が起草に参画した五箇条の御誓文から引用し「万機公論に決すべし」と

の言葉を投げかけた。知事に代わって答弁した杉本達治副知事は「おわび申し上げる。ご指摘は重いものと受け止め、しっかりと知事に伝える」と繰り返ししかなかった。(山本洋児)

意思「出そろった」議長、きょう採決の考え
仲倉典克議長は十六日の県議会全員協議会の後に報道陣の取材に応じ「議会としてのそれぞれの意思が出そろった。最終日に総括、検証の結果を出すことになると思う」と述べ、十七日の本会議で決議案を採決する考えを示した。

「今議会で(西川一誠知事から)投げられたボールをしっかりと受け止め、それ

に対して結論を見いだすのが当然」と説明。知事の判断の時期について「向こうの判断」と断った上で「そんなにタイムラグがないような認識はもっている」と述べた。(塚田真裕)